

生涯教育研修会報告書

病理・細胞検査研究班

学発番号 12-003

平成24年5月12日

報告者

所属 宇治徳洲会病院

氏名 江口 光徳

連絡先 0774-20-1111 (代)

会員番号 264509-0255

行事名：病理・細胞検査分野 実技講習会（共催：滋賀県臨床検査技師会）

日時：平成24年5月12日 土曜日 14:00～17:00

会場：京都保健衛生専門学校 教室、実習室

主題1：液状検体処理細胞診の特徴と標本作成法

講師所属：日本ベクトン・デッキンソン株式会社

ダイアグノスティックシステム事業部

講師名：齋藤 まゆみ技師

主題2：液状処理検体標本作成方法及び鏡検実習

講師所属：日本ベクトン・デッキンソン株式会社

ダイアグノスティックシステム事業部

講師名：齋藤 まゆみ技師

分類：専門 検体検査－20点

全体参加人数：31人（京臨技のみ1人、滋臨技のみ1人）

以下、講演内容など

今回の実技講習会では前半に液状検体についての講義が行われ、後半に実際の液状処理検体標本作成の流れ及び、液状処理検体標本の鏡検実習が行われた。

講義では液状処理細胞診（Liquid-Based Cytology：LBC）とはどういうものかという基礎的な話から LBC 導入による効果や世界的なシェアの話などを聞かせていただいた。講義の最後には今年4月に改定された保険点数の中で、この液状処理細胞診が掲載されたのでそれに関連する話もあった。

後半の実習では検体処理の流れの実習と、鏡検実習とを2班に分かれて交代で実習した。

実際に各自の口腔内粘膜を擦過して採取した材料を用いて実習を行い、染色前の状態までの流れを確認した。鏡検実習では LBC 標本を鏡検したが、婦人科材料だけでなく尿検体や髄液などの標本も鏡検できた。

まだ日本では LBC の普及率が欧米に比べ高くないが、今後は徐々に普及していくだろうと考えられている。検体処理法として LBC をまだ導入されていない施設の方や、婦人科材料以外の材料でも LBC の導入を検討されている施設の方にとっても今回の実技講習会は意義あるものになったのではないかと思う。今後この経験を活かし、より良い標本作りや細胞診スクリーニング時間の軽減などに繋がれば良いと思う。